

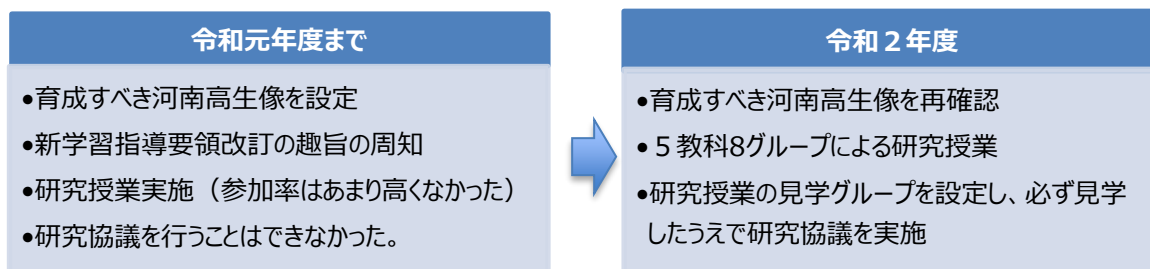
## 府立河南高等学校の取組み

### (1) 学校教育目標(めざす生徒像)

- 授業を通じて、自ら考え、行動することができる生徒を育成する。
- 未来を見据えて、自ら目標を定めて、挑戦する生徒を育成する。

### (2) 主な取組みと組織体制の準備

- テーマ  
・「考える力をつけさせる授業づくり」



プロジェクトチーム（以下、PT）メンバーは、10名程度で構成されています。令和2年度は、令和元年度のリーダーをメンバーの1人として残したうえで、新たなリーダーを立てました。新リーダーが中心となりつつも、新旧のリーダーが協力しながら、組織的な授業改善を進めました。

### (3) 主な実践とその工夫

#### ① 8つのグループによる研究授業の実施と研究協議（9月）

令和元年度に、育成すべき河南高生像を設定し、組織的に授業改善を行いました。研究授業の見学者数が少なかったこと、研究授業後の協議の時間を確保できなかったことが、課題でした。

そこで令和2年度は、授業見学と研究協議を行いやすくするために、全教員を8つのグループに分けて、グループの中で研究授業を行う教員を決め、その教員の授業を他のメンバーが見学するという形をとりました。グループは、教科の枠を超えて授業見学や協議ができるように教科混合のグループとしました。研究協議は、研究授業を行った日の放課後に設定しました。研究授業の様子を動画で撮影し、研究協議の時に見返すことができるようにしたことで、生徒の様子を実際に見ながら協議することができました。令和元年度は、多忙で見学することができないという意見がありましたが、空き時間に見学できるように時間割を考慮してグループ分けを行うことで、ほぼすべての教員が見学することができました。事前にメンバー分けをしてあったことで、授業者が、いつ誰が見学に来るのかを把握することができ、授業者と見学者がお互いに気を遣い合うことなく研究授業を行うことができました。



研究協議の様子

#### 【研究授業・研究協議後の教職員向けアンケートでの意見】

- 多くの先生の授業が見学でき、話を聞くことができ、とてもいい機会でした。今後もぜひ続けてほしいと思います。
- 他教科の授業見学・他教科の先生方との研究協議を通して、日頃自分自身が意識していないような角度からの新しい発見があり、とても良い機会になったと感じる。
- (研究授業の) テーマを絞っていたことで、何に注目するべきかわかりやすかった。

## ② 「考える力をつける」を着眼点とし、授業中の生徒の姿をもとに、8グループの取組みを振り返る（10月）

10月には、外部講師として京都大学石井准教授と教育センター指導主事を招き、全教員を対象に全体研修を行いました。まず、研究授業実践者から、研究授業の「考える力をつける」場面を動画で示したうえで、研究授業の概要と研究協議で議論された内容を発表しました。そのうえで、「考える」とはどのような場面で起こるのか、生徒がどのような姿になっていることなのかを、改めて全体で議論しました。その後、石井准教授から、9月の取組み全般に対する指導助言及び新学習指導要領をふまえた授業づくりや評価についての講演を聞き、現状の河南高校の課題や今後必要になってくることなどについて、教員間で共通認識を持ちました。



全体研修の様子

### 【全体研修後の教職員向けアンケートでの意見】

- 講演を通して、日頃の授業において授業内容や活動などに焦点を当てすぎてしまいがちだったことに気付いた。今後は、生徒の思考や様子などを観察しながら授業内容や活動を深めていきたい。
- 思考させる授業を構築できるよう、生徒の思考を見ることができると感じる感覚を身に付けたいと考えます。
- 自分に足りないものや、「教師とは」という概念が少し変わったような気がしました。

## ③ 複数のアンケートを用いて取組みを検証し、「面での授業改善」をさらにすすめる

成果検証として、全教員対象、全生徒対象、PTメンバー対象のアンケートを実施し、今年度の取組みの検証を行いました。また、職員会議で取組みの総括を発表することで、次年度、さらなる組織的な授業改善を行う意識付けを行いました。

### アンケート結果

#### ○教員対象

##### • 校内研修アンケート結果

「生徒の学びにつなげるには学校全体で授業改善を行う必要があると理解ができた」：約90%

「生徒の姿をイメージしながら指導方法を考えることが重要であると理解を深めることができた」：約80%

「今年度のテーマに向けての取組みは興味深いものであった」：約80%

#### ○生徒対象

##### • 学校教育自己診断結果

「全体的に授業がわかりやすい。」：令和元年度よりも5%上昇

「先生の教え方には、さまざまな工夫がなされている。」：令和元年度よりも4%上昇

##### • R2年度授業アンケート結果

全体平均が3.26に上昇（R1年度3.19）

#### ○PTメンバー対象

チームメンバー全員が来年度も参加を希望と回答

教員対象のアンケートからは、皆が納得して授業改善に取り組むことができたことがわかります。さらに生徒対象の調査結果によると、令和元年度よりも、生徒は教員の授業に対する工夫を実感していました。この要因は、令和2年度に、「考える力をつける」授業に対して、河南高校の教員が組織的に取り組んだ結果であると考えられます。加えて、PTメンバーの全員が、来年度もPTへの参加を希望したことは、今年度の取組みが「やりがい」に満ちたものだったという何よりも証拠です。また取組みの検証により、河南高校の教員全体が「同じ方向」を向いていること、そして生徒にも良い影響を及ぼしたという事実は、今後さらに組織的な授業改善を行うための、大きな推進力となるでしょう。

河南高校は、令和2年度の取組みをふまえ、次年度もPTを中心としながらも、PT以外の教員をより多く巻き込みながら、「面での授業改善」に取り組んでいきます。